



第100回記念 春陽展 2023

国立新美術館

展示室 2A・2B・2C・2D・3B
〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

4/19(水) - 5/1(月)

10:00~18:00 25日(火)休館日
最終日は15:00まで(入場は30分前まで)

名古屋展
愛知県美術館ギャラリー 5月16日(火) - 21日(日)

関西展
宝塚市立文化芸術センター 6月1日(木) - 6日(火)

本会は、戦時中は展覧会の一時中断を余儀なくされましたが、日本の風土と伝統に根差した個性尊重の「各人主義」に基づく創設以来の理念を確実に受け継ぎながら、藤井令太郎、田中岑、五味秀夫等、新しい才能や感性を受け入れてきました。

現在は絵画部約200名、版画部約70名の会員を擁し、全会員による審査、運営により、新しい美術の可能性を模索するべく研鑽を重ねています。また、次世代育成のために、創設以来の伝統である研究会活動の拡充にも取り組み、更なる美術の発展と文化への貢献を目指しています。

春陽会について(春陽会小史)

春陽会は1922年(大正11年)、小杉未醒、足立源一郎、倉田白羊、長谷川昇、森田恒友、山本鼎、梅原龍三郎、さらに客員として石井鶴三、今関啓司、岸田劉生、木村莊八、中川一政、萬鉄五郎が参加して、院展洋画部と草土社が合流した団体として創立されました。

翌1923年(大正12年)に第1回展が開催され、その後、加山四郎、岡鹿之助、三雲祥之助、高田力蔵等フランス帰朝組に続いて、中谷泰、南大路一、また版画部には長谷川潔、駒井哲郎、清宮質文等、日本美術史に名を刻む多くの画家たちが参加しています。